

春に流行しやすい「風疹」



春になるとインフルエンザの流行が終息し、春の感染症が流行し始めます。主に子供の間で流行する感染症ですが、大人がかかると重症化することがあります。また、周囲の妊婦への感染に注意が必要な「風疹」についてご紹介します。

【風疹とは】

風疹ウイルスによっておこる急性の発疹性感染症で、流行は春先から初夏にかけて多くみられます。潜伏期間は2〜3週間で、主な症状として発疹、発熱、リンパ節の腫れが認められます。ウイルスに感染しても明らかな症状がでることがないまま免疫ができてしまう人(不顕性感染)が15〜30%程度いるようです。一度かかると、大部分の人は生涯風疹にかかることはありません。

風疹ウイルスは患者さんの飛まつ(唾液のしぶき)などによってほかの人にうつります。発疹の出る前後1週間は感染力があると考えられています。感染力は、麻疹(はしか)や水痘(水ぼうそう)ほどは強くありません。



【感染すると…】

子供では比較的軽いのですが、まれに脳炎、血小板減少性紫斑病(血小板数が減少し、出血しやすくなる病気)などの合併症が、2千人から5千人に1人くらいの割合で発生することがあります。大人がかかると、発熱や発疹の期間が子供に比べて長く、関節痛がひどいことが多いとされています。1週間以上仕事を休まなければならない場合もあります。

【流行の状況】

従来、1〜9歳ごろに多く発生をみてきましたが、近年は報告患者の9割が成人であり、男性が女性の約3.5倍です。男性は20〜40代に多く、女性は20代に多いです。

男女幼児の予防接種が定期接種になつてから、大規模な全国流行は見られなくなりましたが、2004年に、推計患者数約4万人の流行があり、10人の先天性風疹症候群が報告されました。2012年からの2年間で1万6千人を超える全国流行となり、45人の先天性風疹症候群の報告がありました。

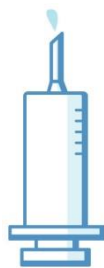
【先天性風疹症候群とは】

妊婦、妊娠20週頃まで(特に妊娠

初期12週までの女性が風疹にかかると、胎児が風疹ウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、そして精神や身体の発達の遅れなど、障害をもつた赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障害を先天性風疹症候群といいます。先天性風疹症候群をもつた赤ちゃんがこれら全ての障害をもつとは限らず、発見までに時間がかかることもあります。

【治療】

発熱、関節炎などに対しては解熱鎮痛剤が用いられますが、特異的な治療法はなく、症状を和らげる対症療法のみです。



【予防接種】

弱毒生ワクチンが実用化され、広く使われています。

・子供の予防接種

平成2年4月2日生まれ以降は、男女幼児の定期接種が行われています。

・大人の予防接種

予防接種の目的の一つは、妊婦が風疹にかかることによって生まれてくる赤ちゃんが先天性風疹症

候群の障害をもたないように、またそのような心配をしながら妊娠を続けることのないように、予防することです。子どもの頃も含めて2回予防接種を受けることによって、成人女性なら妊娠中に風疹にかかることを予防し、または妊婦以外の方が妊婦などに風疹をうつすことを予防できます。ただし妊娠中は風疹の予防接種をうけることはできません。

・妊娠希望の女性の予防接種

妊娠していない時期(生理中またはその直後がより確実です。あらかじめ1ヶ月間避妊してからが良いです。)にワクチン接種を行い、その後1ヶ月間の避妊が必要



予防接種をうけたことが記録で確認されていない場合、男女ともなるべく予防接種することをお勧めします。血液検査で十分高い抗体価(HI検査で32倍以上)があることが確認された場合にはこの必要はありません。予防接種の費用については、各自治体にご確認ください。

(石立)

NIID 国立感染症研究所より

気を付けよう！子供の誤飲

子供の誤飲事故は生後7〜8カ月頃から急増し、3・4歳頃までよくみられます。特に生後10カ月くらいになると、手にしたものを何でも口に運ぶようになります。これは赤ちゃんが順調に成長している証なのですが、誤飲の危険性は増すこととなりますので大人が十分注意してあげましょう。

子どもの事故を防ごう。

①タバコや灰皿を放置しない

誤飲事故の原因として最も多いのはタバコです。タバコや灰皿を置きっぱなしにしないことが誤飲事故防止につながります。また、ご自宅に小さなお子様がいらっしゃる方はぜひ禁煙をされるか、ご自宅以外での喫煙をお勧めします。



②医薬品や化粧品は棚にしまう

小児の医薬品誤飲事故は毎年発生して後を絶ちません。原因物質の中でも、特に医薬品は神経に作用する薬や血圧を下げる薬など薬理作用を持つものも多くあり、重症化することや入院が必要な事例も起きています。医薬品の保管には、なるべく鍵のかかる戸棚や引き出しなどを使うとよいでしょう。ま

た、子供の手が届かない場所を選ぶことも大切です。

③キッチンにアルコール類や洗剤等を放置しない

子供に限らず、洗剤や漂白剤などの誤飲による中毒が起きています。これままでの中毒には、次のような事例が報告されています。

- ・洗剤を調味料が入ったペットボトルに小分けしていたため、調味料と間違え使用してしまった。
- ・飲用水用の容器に漂白剤を入れたまま客に提供してしまった。

化学物質による中毒は、場合によっては症状が重篤になり、救急搬送されることもあります。こうした洗剤などの誤飲による中毒は、見分けのつきにくい容器等がないか再度ご家庭の台所を確認してみましよう。また容器によ

っては簡単に開けられるキャップのものがありますので注意が必要です。



④電池を放置しない

最近特に増えているのが、ボタン電池の誤飲事故です。ボタン電池の誤飲

事故は、死亡に至るケースもあり、非常に危険です。しかし危険性はそこまですぐに認識されておらず、消費者庁でも注意を呼びかけています。電池の誤飲を防ぐため、次の点に日ごろから注意しましょう。



・電池が使われている製品を把握する

どの製品に電池が使用されているかチェックし、電池のフタが外れやすくなっていないか確認しましょう。また、使い終わった電池は一か所にまとめ、子供の手の届かない場所で管理します。電池交換も子どもの目に触れないところで行うことが大切です。

・電池がない時は誤飲を疑って

本来あるはずの場所に電池がない時は、子供の誤飲を疑いましょう。レントゲンを撮れば、ボタン電池の有無や電池の停滞部位が確認できますので、誤飲の可能性がある場合には必ず速やかに受診してください。



もしも誤飲した場合

口の中を覗いてみて、誤飲した物その場で容易に取り出せるようなら、直ちに取り出してください。その場で直ちに取り出すことが難しいと思われるなら、速やかに医療機関を受診しましょう。また、誤飲したかどうか確実でない場合でも、医療機関に相談する、もしくは受診してください。

緊急時の相談窓口

全国同一の短縮番号#8000をプッシュすると、住んでいる都道府県の相談窓口へ自動転送され、小児科医師・看護師から子供の症状に応じた適切な対処の仕方や受診する病院などのアドバイスを受けることができます。

小児救急でんわ相談
 急な発熱・頭をぶつけた・嘔吐、けいれんなど 判断に困ったら
8 0 0 0

参考：日本小児科学会HP・調布市HP・厚労省HP（外丸）

編集後記

お花見シーズンがいよいよやってきますね。花より団子の私はこの時期桜餅をいただくのが楽しみの一つとなっています。さて、桜餅は2種類のもので売られています。その違いはご存知ですか？それは関東風と関西風の違いです。関東では

桜餅を別名「長命寺ちやうめいじ」と言います。溶いた小麦粉を焼いた皮で餡をクレープ状に包んだものを言います。一方で関西では別名「道明寺」と言います。もち米を一度蒸して乾燥させて荒く砕いた粉・道明寺粉を使って、団子状に丸くして餡を包んだものを言います。我が家では今年伊香保にある清芳亭の道明寺をいただきました。とても香りがよく満足のものでした。

皆さんもお花見のお菓子に桜餅を楽しんで、よき春を感じてみてはいかがでしょうか。（松岡）

